

西洋道中膝栗毛

二編
下

14
1260
4



門へ 184
 箱 1260
 巻 4



西洋道中膝栗毛二編下

東京 假名垣魯文戲著

去程小波比那北八の二個の彼縁舎の大不可あま
 希を廣藏を不快しが例の程家のでさるめよ打て
 笑ひの程とあり再吞る所し不疾を更し業日遅く
 紀如くつるが廣藏の日は少く知己の支那人を遠
 島の伸務んと今朝も考へ他出世と吟よりぬこ
 りの後然小絶か通毎段の通比那をそのはしそ



西洋道中膝栗毛二編下

建安の城下と波知此知見おせんと徳合はしつ
 通次郎の居るよ至るに一人りの交那人通次郎
 とらち後以居るの並々の親言とえぬれば
 志多人の目れまれば志多 誦一
 人自れとえまぬ人さあれた 下キニ通さん親玉
 物知へるおけしとらあつらけ方も市仲をちつとぶら
 つらつらえやうおやア福へる 通一
 後引く意んくとさめゆると思つてお知へる南系
 さんか横濱からの知己サとさうそあつら建つ昨日

若くは噂を聞いてたがひくさうらつら尻をまへる
 北とさうだくおけりへる 通一
 大よししくトキニ南
 弟さんハ寿長家の目か度やの若松といふ女郎
 の情人おとらまへるる隙海さんといふ人さうと
 漢ふぬから日本塔あはよく通トておる言氣あか
 けだつら市中案内おけ人をたのむと志ちやどろ
 だらう 誦一
 そのつひ奇妙ヲウライト 北
 サアくまに進
 登く 通一
 マア志づるお志ねる余の若はまると我も行く

おれも坊ウでうる世人のまら女どもが寝くると是を
 迷ひもぐ厄ぬぐらヨ北そらともくモシあん陳さんぶらう
 おれがひ中やストまきひをまきまきああまひるく私
 おともトれより人やまきたらあちとまらあふのひあふを
ああふくおるものよふめぐらけいばむらくふたらぶらう
北アヤくこの家の何高賣ぶらう暖簾あよあふら
 書て何のりそ何願店かアあんぶも大店ぶらう
 ヲイあやてめんどうしては家が大店と分ッこの北おれ
 ても改の店と看板を山かくおく位志やア抱の

おれ人星が多勢集ッてもおるんだらう北ぶらぶらう
 めくそのよふ一字からくあるのを讀移よからそんなる
ねえとよまをまらアありやア判願店あのよの日
 本の髪結店かぶら北アある髪結店が判願店
 湯屋が洗湯店せんあがてんるてんる懐中がまら
 てんてんが鳴てもきれらア北アウあく北やらあふの
 文字のふだららめらることをよふとけあ坊あお
 笑あられる世あまはふよめるありあんだいよまらぶらう

知をねくとらがあつたらソツトあれふきけ^ゲ外^{ゲン}岐^ギガ
 愚^コイくらヨ^北 イヤとやたまふ^北ヨ^北と^カ思^カツ^カく^ク強^ク
 幣^セ幅^ハを^ミま^ミる^セと^ンあ^らむ^フの^シ生^シ薬^{ヤク}屋^ヤの^ノ
 膏^ク板^{バン}と^シ書^シく^クあ^らる^ノ字^ジの^ハ何^ニと^シ続^ツの^シ ^孫ドレ^レク^クウ^ウ
 何^レッ^ッ子^シト^トあ^れハ^ハ子^シと^トせ^うも^モ日^ニ中^{チウ}の^ノ字^ジ引^キあ^やア^ア
 あ^んる^ル字^ジの^ハ後^ノに^シア^ア大^オ繁^ハけ^ケ必^ヒの^ノ作^サ字^ジだ^らう^ウ
 北^キア^アリ^リと^ト負^マせ^セと^トも^モの^ノう^ウげ^ゲん^ンふ^フあ^アね^ネ人^ニ字^ジと^トの^ノあ^ア物^{モノ}
 何^レえ^エ支^シ那^ナから^ラ後^ノツ^ツと^ト相^サ考^コや^ヤア^ア福^フく^クと^トれ^レふ^フから^ラの^ノ

字^ジ引^キの^ノ日^ニ中^{チウ}の^ノ字^ジ引^キと^ト分^フ隔^{カク}ハ^ハ五^ゴと^ト思^シふ^フ
 世^セ ^孫イ^イヤ^ヤ字^ジの^ハ後^ノツ^ツの^ノ支^シ那^ナから^ラあ^アや^ヤア^アね^ネ^北
 あ^ら何^ニ知^チくら^ラぶ^ブヨ^ヨ ^孫イ^イヤ^ヤ後^ノツ^ツと^ト知^チハ^ハ子^シト^トか^カら^ラう^ウ
 と^シる^ルの^ノフ^フガ^ガ日^ニ中^{チウ}に^ニ引^キだ^ラら^ラが^ガか^カり^リれ^レバ^バ八^ハ百^{ハク}や^ヤく^ク
 ト^トあ^アと^トあ^アめ^メと^トあ^アら^ラる^ル北^キ
 支^シ那^ナと^ト通^ツ津^ツ那^ナの^ノあ^アと^トあ^アら^ラる^ル ^孫それ^レハ^ハ近^{キン}と^トあ^アら^ラる^ル平^{ヘイ}氣^キ
 の^ノ結^{ケツ}那^ナと^トあ^アら^ラる^ル結^{ケツ}と^トあ^アら^ラる^ル連^{レン}と^トあ^アら^ラる^ル
 ろ^ロを^シえ^セあ^アら^ラ引^キか^カし^シく^ク字^ジ備^ビあ^アれ^レ新^{シン}中^{チュウ}を^シえ^セ
 集^{シツ}の^ノ結^{ケツ}那^ナの^ノあ^アの^ノ町^{チウ}人^ニ女^ニ部^ブ関^{カン}の^ノあ^アら^ラう^ウあ^アや^ヤ



よし人
 志々々
 邪まうは
 世及も梅の
 あり
 一之娘

MSA



原榎をまろをり何むててくせえそくせえアタタ
 おもひふらんづるあそくかき里合をつけくるといふ
 あり當るに踏倒志やアがうこのきアイタタ
 破つようご 漆はらん一寸見そくえぬ
 利う後人男ごせむりしてうろり備へうらむるめん
 外喰が魚イヤアヤヤ 大勢唐人をまろから
 川のある組まで行く志をりを志ね人サア
 うぢきうてて集りちのあらね人白ひご
 北 三イとん

あおねえお何うの移りんごせたと外喰が
 からうが集りちのあらね人が何内と出来あ
 たうらけ町の自身妻へかッそく唐年考へ
 今合名の原がなるだらうたう今のも
 西園と東橋の河岸に池ある原を捜
 までお知れらアエシ通次郎さん
 自身妻まで通 けをのりけ園
 や唐年考へあやアあね人
 けしてあふごの何づ
 西澤五郎三十一

橋のつと日中から海上に百里を歩かば一とくをんる
 深きをりへ痛入のをよめてごひまをよるだけ船の上
 物のをささるのさうらそやくあまけと云ったらそあま
 船へう北の船の上ゆり小原を添りやアけうの船へく
 何の国男と交那三界来とくまそあんあめあ
 金だらうからアモウ友から帰國たぐ成とさる
 通アソくよりの事をだーある子モシをんをるを
 云つてもも英吉利の船頭へゆきや毎晩女の

方から夜遠小舟く名代りたりされやせんせ船い
 工とぶがあめへのやあらは船から便船をりらつとく
 日中へ帰るあさるがゆて女運の絲入人ごのうゆ次
 さん赤ホニニヨ金伴我國よわとくせん女あやア好ま
 ねへ男だらうら晚や邦國小あのてをやタ北アヤ英吉
 利のせんあお婦人がおけるのうそつらあきゆぐと
 色の種あかれも汗べの通アソくイヤまのか方教ら
 あつとつとく赤アソくイヤあきれの現金を男ごぞ

藤々 魯文
 黒牡丹
 黒牡丹
 黒牡丹

HARPLES



北八



支那の女

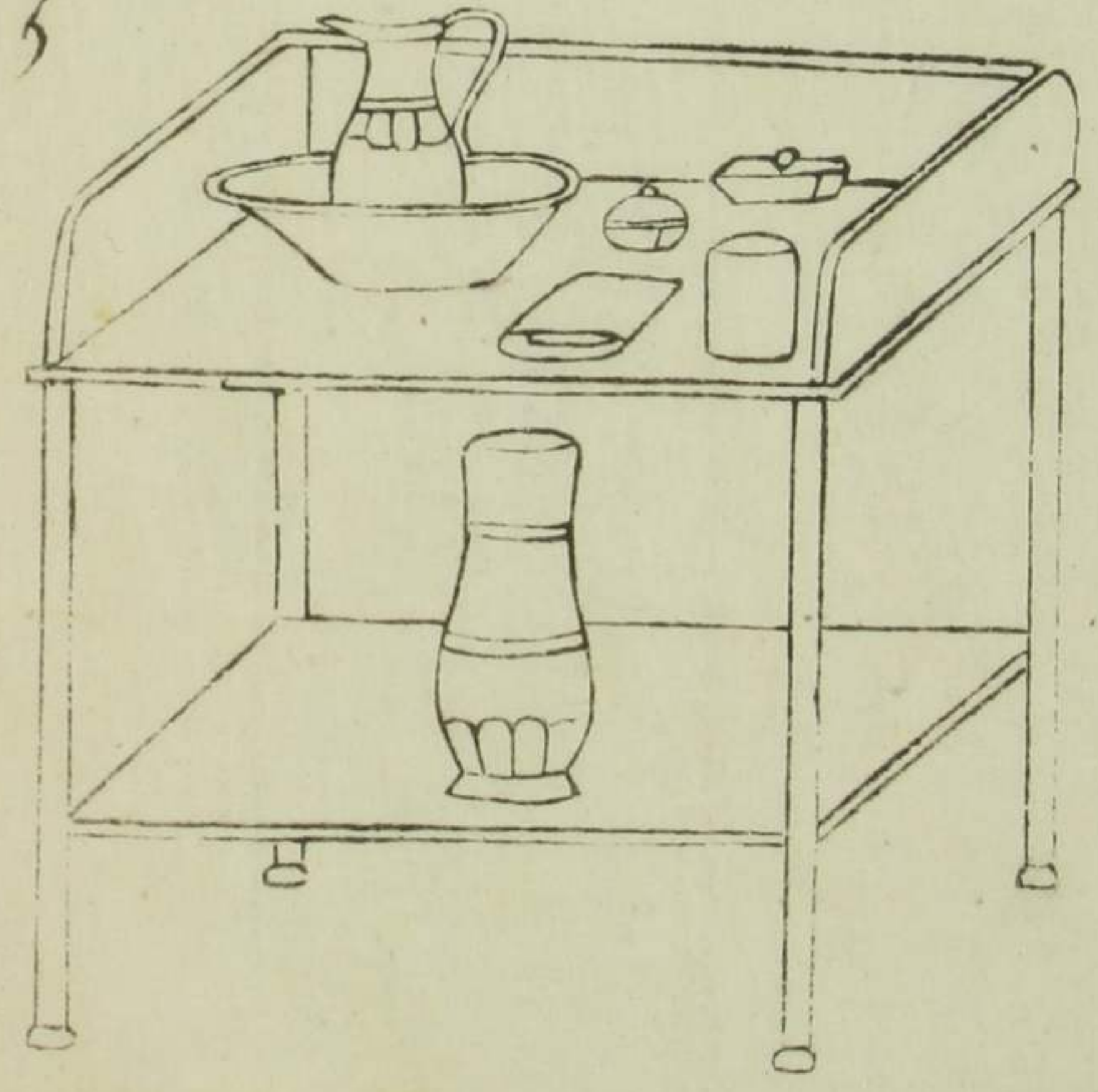
イギリス

黒坊

の...
を...
図の如き器械あり

手水臺
ウツシ
スタンド

一体此器械ハ西洋人の
竈間ニある手水鉢の臺
あり茲ニハ片山氏の西洋
衣食住と題号小冊中の
縮圖を依て趣向の一端と
るものと委しく彼書ニ記せり



○さて北ハハて...
か...
え...
る...
日本...
胡...
大...
請...
尊...
歩...
ト...
の...
西...

北ハガ...
い...
と...
英...
ホ...
イ...
下...
か...



の出づけとて人未かりしが園帝廟の形をまざるごとて
 北八が廟の中より半身外へ作向は例きくる淫女を尋
 ようまどめりめいしくゆるさるまきあがらそのとさうふ
 ありつどひ一人あまらふよりろふはぎをとりて北八の
 とくと存懐懐中身のまわり結らむとき奈葉まきけり
 ○まふ結次郎通次郎あつりの若の北八が便所は
 いふしあとな結りて酒汲か色し結てどましく一向は
 めり来されい如何世やとあふらふはあはじの異人

牛切の異美等何とてじく走来りあ人を瓦巻
 て手結あまさん形相あるあぞゆるやあらんと通次郎
 の異人等を制止つ英治をゆるく治骨を同小
 同傳の男が北八を商家の婢女をとらしくあつぐ
 有乱好をとりしきしう捕へて後所不連ゆんとな
 あふらち裏はより近法かばけとの同傳のあいのつ
 おをありとあいの介あま後の極子を咬いて二人り
 の驚きさめぐと云はるあまお驚らば婢女の衣後を

西洋藥毛二下

十一

損ね家内の若を強じて商ひを妨げたる傍に金
 を出せばしと外圍流の掛合よとらう〜若下か
 敷成して呑たる酒の碎も醒果もろくの俵あそ
 こをまき出さるあそくも北八の何方へ逆法しや同俵あ
 飽まそ〜雜貨をわけ自こい鹿ららゝの親者あて何
 如をぶらうたぬるやらん出合がわびしてくれんとり
 来し方を尋ぬるよ日の暮る中へ出あひまそあそく
 強者へ戻りしあそんと強弱屋へいまはれかたりそ

きけども未だのどろき来とりのあそぶあそく北八の
 今日のお始末揃くいあそくと較百里を強したるの
 ことあそく捨てもあそれ強が事い先割素肉よ程と
 たる強海へ三人おとくれ強り来て強者よ強くを
 強合せ居るるを強ひ枕打を燈させるほどその余
 強舎の男を二三人を強さる〜嘸んチヤルヌラ強
 ち強を敵うせあそく城下の横町裏通りを遠道
 とたづめあそれどはあそくあそくあそれざればあそくあそくあそく

西洋書三十一

十七

北八ヤアイ引〇トキニ通ぬさんアノ破家此席の物
 細く紗きやアがらうらう圍ったとんちきごを
 そろサ半座を近おしこの裏はうらごとのうら
 物でもコリヤ田舎もち入迄エリ込んで種瓶あでも
 つまこれこ小遠く相ノ支那の瓶ハ金毛九尾
 白面ぶとりうら化しやうか念かハッて帷糊を蕎
 麦とく燈せたりるの麻を巻ふとくせと化走

をする後へあととあやアせむぬのヲ通
 彼奴が多福を見込レてあつるまきあタラビアンの女
 小化しきあつるあまうこ上腰を腕をぬいせく
 中死生ふあてサセの揚むが小便桶もゆかん
 是して天窓の毛を喰切ッてちやんく場主のか膏
 刺さてもきあけるだらう物しても厄介サ子
 どうか油苦男あがら各方よ頼んで田舎道をモウ
 一遍くろ移てりらつてあせんあせ人もあ人もかり合

だうら仕方が移入

トは重多同玉同好のほほりらう死友だらりの
ゆたき考れぬよ大高ふよとせり考れくまされる

通ハ那もきあどく中あり支那入

通

まひどめく 日中あんや

ア引

わつらんらんろろ

即使啼去春

日本人多らあ
まよひこうとろ

きんた云

きんた云く ちんらんめんピイキブウくく

ドンクキヤクキヤンカンクキドクキドクキト山ある

たつぬらふかの園帝ぶくのこりらああもとてききりてたをまれくる
そとろ身あがらゆんまのまひのさう日本人多らあはれが跡跡跡跡
らちとろふたちとまるとちやうらんはいつけ
とろくこれがまひあは北なる中をおおとろ

通ハん北ハが中らもたらうで死ンでゐるヨ大高とく

通「ヨヤク」ホニニあつ川ハ強動ぶどりしてあんな

要と 養生をあらう物めく ト ちあつんをあら

「イヤらやア目をや」めく末からびよあつ中り

が何し 獲のまほし通あから喉かほとあつ

トあつりのあをたがゆ。 北ハやア引く 北ウく志あつ

く ちんらんらんらんらん通ハんとやく水

通「ヨツトがつてんソレ水ヨトあつれのおをまほつひ

のはねぢいもあつり入れるト北ハつとちづばととんやうやふ目を
ひらたもつをまらうくまのうやちまのりてあ死をうあ

西洋菜毛三下

ト

北^アマモむさ^スヨヤ^リ殊^ナ決^スえん^ノ通^スえん^ムあ^ムん^セい^フり^シ
^殊ヤ^リム^ク一^キち^リう^キち^リう^キち^リう^キち^リ
^トじ^シい^キい^キい^キい^キい^キい^キい^キ
^トム^クヤ^リム^ク一^キち^リう^キち^リう^キち^リう^キち^リ
^ノ通^スえん^ムあ^ムん^セい^フり^シ
^トじ^シい^キい^キい^キい^キい^キい^キい^キ
^トム^クヤ^リム^ク一^キち^リう^キち^リう^キち^リう^キち^リ
^ノ通^スえん^ムあ^ムん^セい^フり^シ
^トじ^シい^キい^キい^キい^キい^キい^キい^キ

ス^レび^クあ^リつ^クを^シて^ル人^ノ世^ニあ^ラん^ト又^キあ^リつ^クを^シて^ル人^ノ世^ニあ^ラん^ト
^ノ通^スえん^ムあ^ムん^セい^フり^シ
^トじ^シい^キい^キい^キい^キい^キい^キい^キ
^トム^クヤ^リム^ク一^キち^リう^キち^リう^キち^リう^キち^リ
^ノ通^スえん^ムあ^ムん^セい^フり^シ
^トじ^シい^キい^キい^キい^キい^キい^キい^キ
^トム^クヤ^リム^ク一^キち^リう^キち^リう^キち^リう^キち^リ
^ノ通^スえん^ムあ^ムん^セい^フり^シ
^トじ^シい^キい^キい^キい^キい^キい^キい^キ



西洋人

此八

老翁人

通「あんちきあそくも抗まれぬごらう 志じまら

ききつりてゆらりめでてく 教心あんど 唱家く

めてさう 通さん 啓の 房よ あめ入から 北「モシよ

かんやくとさる 謝してあくんあせくブルル ン ガタノト トあえ

ろくく 謝してあくんあせくブルル ン ガタノト トあえ

牛登くらひきあまを 砂の 罾 晴よ

くまの 目を 開く あとの 志 じまら

糸「ツット あれも 一背うんご

から麻のまぶらそを録のあは坂や

このあはをてあてを録のあは坂や

新のまぶらそをてあてを録のあは坂や

○第三編の英領香港の清聖姫家登橋

のあはしより「セイゴ」の後海の船路

風の一回国中の船路をてあてを録のあは坂や

板仕の男少洋判をてあてを録のあは坂や

西洋道中膝栗毛二編下巻

東海道中膝栗毛 中本 木曾道中膝栗毛 中本

萬國航海西洋膝栗毛 中本 奥州道中膝栗毛 中本

亞墨西洋膝栗毛 拾遺 滑稽言五十三驛 切付

東京書林 本石町二丁目 椀屋伊兵衛 椀屋伊三郎 椀屋喜兵衛

